

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無 ▼	電話	042 (769) 8273
担当部課名	土木部 ▼	河川整備	課 ▼	整備
事務事業名	河川資源循環活用検討経費		事業コード	32510

1 総合計画における位置づけ

政策名	Ⅲ 第 2 章	質の高い都市基盤の整備を進めます	事業開始年度
基本施策名	第 5 節	河川の整備	13 ▼ 年度
施策名	第 1 施策	治水対策の推進	

2 実施根拠及び関連法令等

河川法

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象 (誰、何)	
鳩川の下流 (鳩川分水路上流) には、上・中流の河床の玉石等が多量に押し流され堆積している。この堆積している玉石等の中・上流部に運搬供給し、河床の洗掘防止対策と河川浄化機能の促進を図る。 また、多自然型川づくりとして用いるフトン籠や蛇籠の詰め石材料として活用し、河川資源のリサイクルとコスト縮減効果及び河川環境の改善を図る。		市民	
		対象数	不明
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
1. 河川土砂掘削収集量 160 m ³ 平成14年度 予定活用量 河床洗掘防止対策 75 m ³ 改修工事 (準用河川鳩川・一級河川道保川) 85 m ³		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度～ 年度

4 評価指標

指標名	保有率		
指標式	$\frac{\text{当該年度までの現場掘削量}}{\text{当該年度までの目標掘削量}} \times 100$ (H13実績: 160 m ³ / 160 m ³ × 100)		
指標設定の意図	保有する掘削量を数字で表示		

5 目標と実績

[金額単位: 千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度 (評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標 ①			a 100.0	b 100.0	100.0	
指標 ②			c	d		
指標 ③			e	f		
事業費	決算 (予算) 額		1,155	1,560		
	人員・時間数		60時間	60時間	10時間	
	人件費		251	251	42	
	その他経費					
	合計	0	0	1,406	1,811	42
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 100.0%
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%>)	

$\frac{a}{b} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
------------------------------------	----------------------------	----------------------------

理由: 平成13年度は、新規事業として現地調査した後、掘削した玉石等の置場を確保した上で工事を行い、目標量を確保した。ストックした玉石等は、平成14年度の河床洗掘防止対策工事及び多自然型改修工事でフトン籠等の詰め石材料として活用する予定である。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 B ▼	A : 適応している	理由: 頻発する異常降雨に伴う河川中・上流部での河床洗掘対策及び多自然型河川改修整備のため、フトン籠等への詰め石材料に再利用することで、良好な自然環境を補っている。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 A ▼	A : 妥当である	理由: フトン籠等の詰め石材料として河川から発生した玉石等を再利用することで、河川材料のリサイクル及びコスト縮減を図っている。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適切か		
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由: 下水道法第26条の中で、市町村が行うことになっているため、事業の代替性はない。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 A ▼	A : 満足できる	理由: 環境面に配慮した発生材料の使用について、満足できるものである。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A : 有効である	理由: 河川から発生した玉石等の再利用によるコスト縮減及び環境に配慮した材料の採用により、有効な手段である。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		<p>説明: 発生した玉石を、石積や階段などに利用する等、用途範囲を広げることにより、より有効な活用ができる。</p>
	<p>コスト改善余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		<p>説明: 現地発生材料を直接利用することにより、コスト縮減をより一層進めることができる。</p>

7 総合評価

評価 A ▼	他自治体の類似事業との比較		<p>説明 近年の都市化による未利用地の宅地化や異常降雨の頻発により、河川の中・上流部の河床の洗掘(護岸の安全性の低下)や下流部の土砂の堆積(流水の阻害)が生じる。そのため、河川からの発生材料を再利用することにより、良好な河川環境の形成、リサイクル及びコスト縮減を十分図れるか、今後更に効果を検証したい。</p>
	<p>今後の進め方</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 完了		

8 二次評価における変更点

--